



ドクターGとして有名な院外講師徳田安春先生をお招きし、「闘魂外来」を開催していただきました。中四国初開催となったこのセミナーに、10名もの医学生が参加し、実際に患者を診る体験はおそらく初めての方が多く、講師の先生はご挨拶で、「大学で学んだ知識があったとしても、実践は難しいというのを体験してほしい」と仰っていました。イベントは初めてという学生さんもいて、期待を膨らませつつ熱気に包まれた雰囲気なか、9時より救急外来での指導が始まりました。



宮里悠佑先生



松本謙太郎先生



北 和也先生



徳田安春先生



開始時から複数のCO中毒やCPAの救急搬送があり、多忙な救急外来でしたが、Walk-inの症例を、講師、上級医、研修医、学生で1チームとなり問診・診察から診断し、オーダーを行い、軽症者は帰宅させるまでをきめ細やかに指導をしていただきました。



多くの学生さんが実際の患者に触れるのは初めてで、思うように行かないなか、当院医師と講師の先生が、問診の取り方など一からの実践指導を行いました。看護師3名の方にもご協力いただき、学生にとっては当院が初めての現場体験として、印象に残ったことと思います。

白熱した外来は 15 分あまり予定を延長して終了し、その後職員食堂にて昼食となりました。



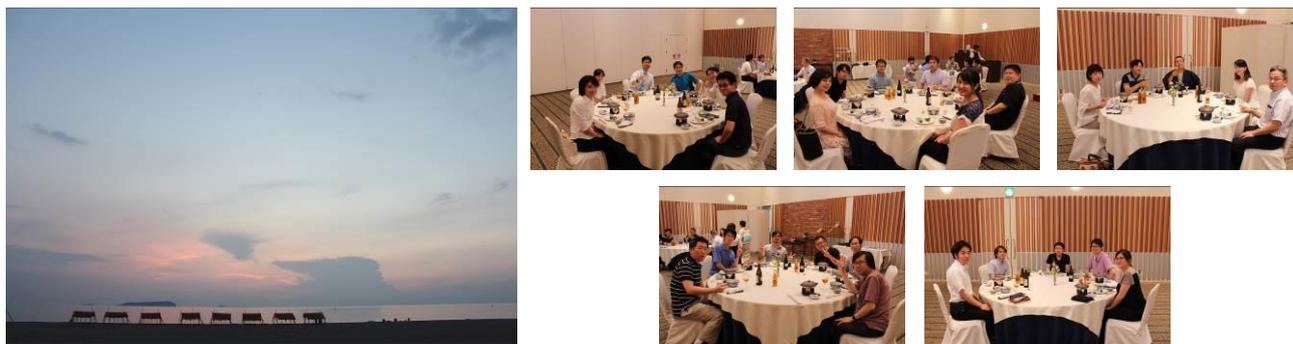
昼食後、3F 講堂にてケースカンファレンスを行いました。

朝に診察を行ったチームごとに症例提示を行い、それに対して、講師の先生方は会場内を巻き込んでどんどん質問を投げかけ、テンポよく臨床推論をすすめて行きました。スピード感のある解説の中でも、救急外来の現場でよくあるピットフォールや、その対処の仕方を丁寧に覚えやすい言葉で解説されていました。



カンファレンスは予定時刻ぎりぎりまで行われ、夜の会場へ移動となりました。

懇親会を兼ねた夕食の後、会場を変えて再びカンファレンスです。



状況によって変化するチェックポイントをどんどん例示しながらも、知識だけではない実践力に基づいた考察に研修医も熱心に聴き入っていました。終了は23時を過ぎ、明日の朝に3症例を残しました。



翌朝9時45分より、残りの3症例のカンファレンスを行いました。



全ての症例カンファレンスが終了した後、徳田安春先生自らが、触診のレクチャーをして下さり。学生の一人が模擬患者となり、手と聴診器だけを使って体内を診るテクニックを直伝して下さいました。いろいろな触診の方法を上級医もかたずをのんで見守っていました。



全ての日程を終了し、写真撮影を行い解散となりました。



【講師】

- 徳田 安春先生 (JCHO、筑波大学客員教授)
- 松本 謙太郎先生 (国立病院機構大阪医療センター)
- 北 和也先生 (奈良県立医科大学)
- 宮里 悠佑先生 (大阪府立急性期・総合医療センター)